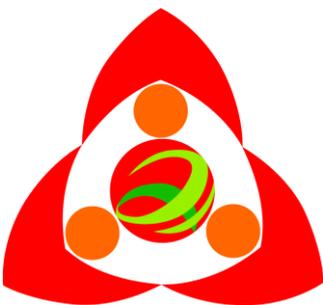


評価の手引き (案) Ver.1

令和元年度

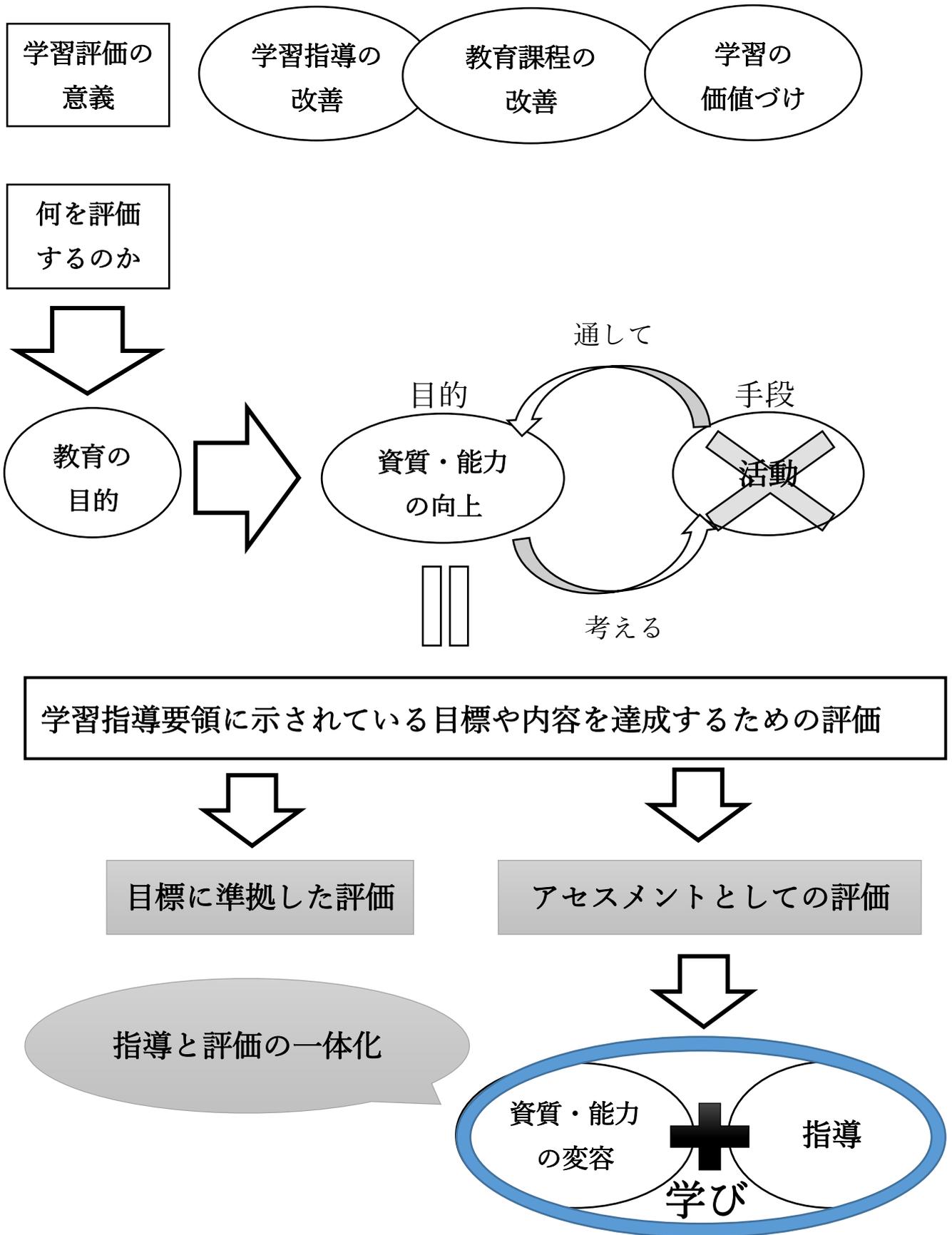
県立宮古特別支援学校



目次

1 評価について	
「評価とは」 相関図	1
(1) 学習評価の意義	2
(2) 「何を」 評価するのか	2
2 観点別学習状況の評価について	3
(1) 「知識・技能」	4
(2) 「思考・判断・表現」	4
(3) 「主体的に学習に取り組む態度」	5
3 目標と評価規準、評価基準の立て方	6
4 評価計画を含めた学習指導案づくり	8
5 個別の評価記録	11
6 学習指導案・個別の評価記録実践例	
(1) 小学部合同 遊びの指導 「かくれおにごっこをしよう」	13
(2) 小学部4年 訪問学級 「リトミック」	17
(3) 中学部複式 生活単元学習 「いろいろな伝え方にチャレンジしよう」	22
(4) 高等部2年 生活単元学習 「自分達で学年お楽しみ会の計画を立てよう」	28
8 通知表の書き方について	
(1) 通知票の書き方について	33
(2) 通知表の記入で配慮したいこと	33
(3) 通知表の記入例（小学部）	35

「評価とは」 (次ページの説明の相関図)



1 評価について

(1) 学習評価の意義

学習評価には3つの意義があると考えられる。

- ① 教師が、学習指導の改善に活かすため
- ② 教師が、教育課程（個別の指導計画、年間指導計画等）を見直し改善するため
- ③ 児童生徒が、自分の成長を実感し学習に対する意欲を高めるため

「評価」と聞いてすぐに思い浮かぶのは通知表や指導要録だという教師は多いのではないだろうか。しかし、通知表や指導要録は「評価」の一部であり、上述の3つの意義で言うと、主に③の意義を持つものである。教師が、評価を通して3つの意義を果たし、効果的に学習指導を行っていくためには、3つの意義に即した評価を行っていく必要がある。それが「観点を明確にした評価」であるとする。

(2) 「何を」評価するのか

教師は児童生徒に対し「学習活動」を実施する。そしてその「学習活動」を評価する。しかしながら、教育とは、「学習活動」を行うことが目的ではない。教育の目的は「児童生徒の資質・能力の向上」を実現させることである。「学習活動」はそのための手段であり、目的ではない。そのため、学習評価の対象となるのは「児童生徒の資質・能力の変容」である。教師は、「学習活動そのもの」を評価するのではなく、「学習活動を通して捉えた児童生徒の資質・能力の変容」を評価する必要がある。

ここでの「資質・能力」とは、学習指導要領の「目標」または内容に示された「事項」に示されている記述内容のことである。そのため、学習指導要領の「目標」または内容に示された「事項」の記述内容が評価を行う際の「単元の目標」となる。そして、その目標の達成を目指す評価が「目標に準拠した評価」ということになる。

これは、これまで入試やテストの際に行われてきた集団に準拠した相対評価とは全く別物であり、「アセスメントとしての評価」であるといえる。「アセスメントとしての評価」とは、「学習過程の中で児童生徒がどのように向上したかを見取り、支援する評価」である。そこでは、学びの結果を問うだけでなく、学びの過程そのものを重視し、児童生徒がいかに学ぶかを支援するという積極的な教師の関わりを含む評価となっている。つまり、教師として児童生徒と距離を置いて評価を行うのではなく、教師自身も学びの当事者となって、学びそのものを充実させていくことも含めて、学習評価を行っていくということである。

この「手引き」における「学習評価」は、「目標に準拠した評価」「アセスメントとしての評価」を示している。

【 「何を」評価するのか 】

「学習活動を通して捉えた児童生徒の資質・能力の変容」 + 「教師の指導・支援」

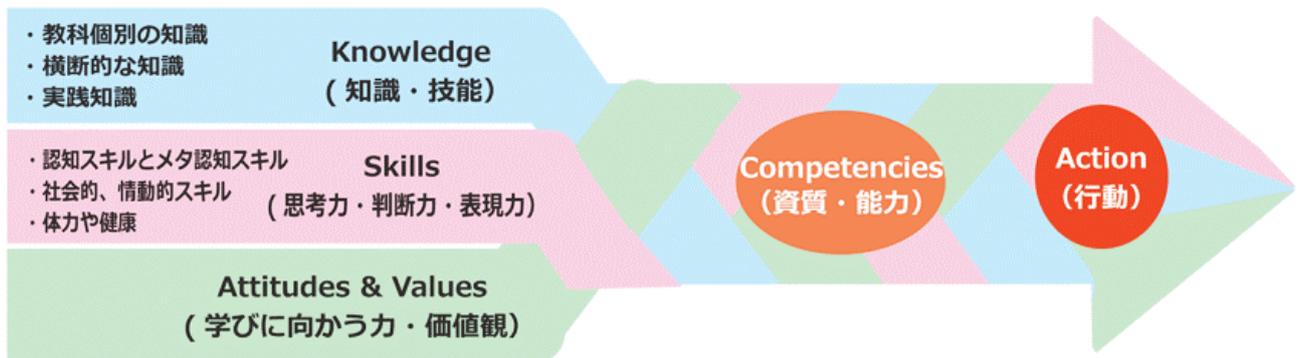
2 「観点別学習状況の評価」

「観点別学習状況の評価」とは、育成すべき資質能力を3つの観点の視点から見取り、学習状況を評価するとともに、一人一人の学習状況を支援するための評価である。中央教育審議会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成31年1月21日、以下「中教審『31年報告』」）では次のように示されている。「今回の学習指導要領改訂では、各教科等の目標や内容を「知識及び技能」「思考、判断、表現」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で再整理している。これらの資質・能力に関わる「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点別学習状況の評価の実施に際しては、このような学習指導要領の規定に沿って評価規準を作成し、各教科等の特質を踏まえて適切に評価方法を工夫することにより、学習評価の結果が児童生徒の学習や教師による指導の改善に生きるものとするのが重要である。」

このように、観点別学習状況の評価では、目標に準拠した評価として学習指導要領に示されている「目標」や「内容」の「事項」を対象として単元全体で育成すべき評価規準を設定する。そして、その評価規準に対して単元全体を通して何を、いつ、どのように指導するかということを明確にし、その指導による児童生徒の評価規準に対する実現状況を3つの観点から見取ることが必要である。

また、それぞれの観点は相関し合っている。（図1参照）「主体的に学習に取り組む態度」は「知識・技能」「思考・判断・表現」を身に付ける際に発揮される力であり、単独で発揮される力ではない。単元を通して身に付けていく力なので3観点の中でも後半に評価されることが適切と考えられる。「知識・技能」を身に付けて、その力を「思考力・判断力・表現力」として活用することもあれば、「知識・技能」を身に付ける際に「思考力・判断力・表現力」が発揮されることも考えられる。3つの観点の力がお互いに影響し合って、1つの資質・能力が育まれていくと考えられる。

図1はOECDが2030年に子どもたちに育成すべき資質・能力の内容を示したものである。3つの観点の力が絡み合い、行動として表出されている。行動として表出される際には、3つの観点の力が同時に発揮されているが、それを教師が意図的に捉え直し、1つ1つの観点の力を分析的に評価し、指導していく必要があると考える。



OECD『Global competency for an inclusive world』より

図1

(1) 「知識・技能」

新学習指導要領によって、これまでの「知識・理解」と「技能」の観点が「知識・技能」に統合されたわけだが、「理解」の文言がなくなったからと言って、その観点が抜け落ちてしまったわけではない。日々の「わかる」授業により、理解を伴った豊かな知識の習得を保障し、応用の利く知識、つまり生きて働く知識を形成していくことが求められる。

【知識・技能】

各教科において習得すべき知識を理解して、実際に活用できる技能として身につけているかどうかを評価する観点です。特別支援教育では、生活に必要な知識を頭で理解しただけ、もしくは技能を機械的にできるだけにとどまらず、実際の活動や体験を通して「わかってできる」力になっていることが重要です。

(2) 「思考・判断・表現」

「思考・判断・表現」の評価は、「各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価するもの」（中教審「31年報告」）とされている。「知識・技能」が「わかってできる」レベルの思考力であるとするなら、「思考・判断・表現」は「使える」レベルの思考力であり、意思決定や問題解決等、複数の「知識・技能」を総合知として活用しているかどうかを評価する必要がある。

また、「思考・判断・表現」の評価のポイントとして、京都大学大学院准教授、石井英真は「新指導要録と資質・能力を育む評価」（ぎょうせい 2019）の中で以下のように述べている。「ドリブルやシュートの練習（ドリル）がうまいからといってバスケの試合（ゲーム）で上手にプレイできるとは限らない。ところが、従来の学校教育では、子供たちはドリル（知識・技能の訓練）ばかりして、ゲーム（学校外や将来の生活で遭遇する本物の、あるいは本物のエッセンスを保持した活動：「真正の学習」）を知らずに学校を去ることになっている。変化の激しい社会の中で学校教育に求められるようになってきているのは、知識・技能を総合して他者と共に協働的な問題解決を遂行する「真正の学習」の保障である。そして、そうした学習が自ずと生じるよう、「問題のための問題」（思考する必然性を欠いた不自然な問題）に陥りがちな学校での学習や評価の文脈を、よりホンモノなものへと問い直すことが求められている。」つまり、「使える」レベルの思考力を評価するためには、正解が一つに定まらなかったり、定型化された解法がなかったりするような課題解決の場面設定を教師が行い、その学習場面において児童生徒がどのような総合知を発揮するのかを見取っていくことが必要となってくる。そのためには、児童生徒が「思考・判断・表現」するための時間を保証することも必要となってくる。

「思考・判断・表現」は、特に教科の特徴が表れる観点なので、学習指導要領で確認しながら、児童生徒の発達段階に応じて適切に目標の設定および評価を行っていくようにしたい。

【思考力・判断力・表現力】

各教科の知識や技能を活用して課題を解決すること等のために必要な思考力・判断力・表現力を児童生徒が身につけているかどうかを評価する観点です。また、各教科の内容について思考・判断したことを表現する活動と一体的に評価する観点です。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」

以前用いられていた4観点の「興味・関心・意欲」から学習指導要領改訂を受けて新しく「主体的に学習に取り組む態度」の観点が用いられるようになった。「知識・技能」「思考・判断・表現」を支える重要な観点であり、教師が「主体的に学習に取り組む態度」の観点を的確にとらえることは必要なことだと考えられるので、中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日、以下「中教審『28年答申』」）、中教審「31年報告」で示されていることを中心に見ていくことにする。

『主体的に学習に取り組む態度』と資質・能力の柱である『学びに向かう力・人間性』の関係については、『学びに向かう力・人間性』には①『主体的に学習に取り組む態度』として観点別評価（学習状況を分析的に捉える）を通じて見取ることができる部分と、②観点別評価や評定にはなじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価（個人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する）を通じて見取る部分があることに留意する必要がある。

なお、観点別学習状況の評価には十分示しきれない、児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況等については、日々の教育活動や総合所見等を通じて積極的に子供に伝えることが重要である。（中教審「28年答申」）特に特別支援教育においては、「よい点や可能性、進歩の状況」を子供に伝え、自己肯定感を育むことは学習意欲の喚起に有効だと考えられる。

また、『主体的に学習に取り組む態度』については、学習前の診断的評価のみで判断したり、挙手の回数やノートの取り方などの形式的な活動で評価したりするものではない。子供たちが自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった、学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしていたりしているかどうかという、意思的な側面を捉えて評価することが求められる。（中教審「28年答申」）ということも指摘されている。つまり、単元の初期のころに見られる積極性はその単元で育まれた主体性・積極性ではなく、子供が元々持っている性向、もしくはその単元の学習以前に培われた主体性・積極性だと考えられ、その単元の『主体的に学習に取り組む態度』の評価の対象となることはできない。中教審「31年報告」では、「主体的に学習に取り組む態度」のみを単体で取り出して評価することは適切でないとされており、「知識・技能」「思考・判断・表現」と一体的に評価していく方針が示されている。具体的な評価の例として、課題解決学習を実施する際に、思考のみならず、粘り強く考える意欲や失敗から学ぼうとする態度が要求されるように場面設定を行い、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の両方を評価していくといった方法が考えられる。

そして、「身に付けた資質・能力は将来どのように活用されるのか」、「なぜこの資質・能力を身に付ける必要があるのか」ということも理解される必要がある。つまり、学習内容の「意味理解」だけでなく、学習内容の「意義理解」も重要となってくる。そのためには、本時や単元の「ねらい」を児童生徒に説明する際に、将来の生活に結び付けて話すようにすることが効果的だと考えられる。

【主体的に学習に取り組む態度】

児童生徒が知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする側面と、自らの学習を調整しようとする側面の2つの側面から評価する観点です。

3 目標と評価規準、評価基準の立て方

①「身につけさせたい力」を設定します

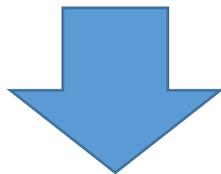
はじめに、児童生徒の実態や課題からその教科領域の学習を通して「身につけさせたい力」を設定します。その際には教育課程の基準である学習指導要領で示されている目標や内容の事項を参考にしてください。



授業を構想する際には、身に付けさせたい力をつけられる適切な単元（活動）を考えます。単元（活動）を先に考えるわけではありません。

②「身につけさせたい力」から単元の全体目標を導き出します

設定した「身につけさせたい力」をつけさせるための、単元の全体目標を考えます。目標は児童生徒の立場で書きます。この目標も「活動の目標」ではなく、「資質能力の目標」となることに留意して下さい。学習指導要領の目標や内容の事項が参考になります。



③単元の全体目標から単元の観点別目標（評価規準）を立てます

単元の全体目標を3観点の目標に分けて書きます。何に着目して評価するのかという内容を書くようにしてください。単元目標が複数ある場合は、その中でも一番重視する単元目標の観点別目標を書いてください。この単元の観点別目標が単元の評価規準になります。学習指導要領の内容の事項は観点別に整理されているので、参考になります。



④単元の観点別目標から単元の個別の観点別目標を立てます

単元の観点別目標を受けて、「その目標をAさんについて考えるとこうなる」というようにして単元の個別目標（観点別）を設定します。ここでは、基本的に一人一人3観点のそれぞれの目標が立てられます。この単元の個別の観点別目標が、単元の個別の評価規準になります。



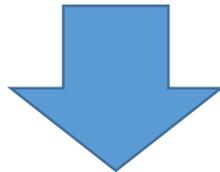
⑤単元の観点別目標を受けて、本時の目標を立てます

単元の観点別目標を受けて、本時で重点を置く観点に絞って目標を設定します。集団全体で本時に取り組むことを設定します。



⑥本時の目標を受けて本時の個別目標を立てます

本時の目標を受けて、本時における個人の目標を観点別に書きます。全ての観点の目標を立てる必要はありません。単元の個別の観点別目標に対応させて書きます。個別の実態に応じて本時の目標とは違う観点の目標になることもあります。



⑦本時の個別目標を受けて、本時の個別の評価基準を立てます。

本時の個別目標に対して、個々の児童生徒が、どのようなことをどの程度できれば目標達成といえるかがわかるように設定します。本時における児童生徒の学ぶ姿を想像して設定します。

【評価規準】

目標に対して、観点別に具体的な活動場面を想定しながら「何ができれば『できた姿』となるのか」を文章で表したものです。評価規準を設定することで、児童生徒の学習状況の評価を明確に実施することができます。本校では、この「評価規準」と「観点別の目標」を同義と捉えています。

【評価基準】

評価規準で示された学習内容の習得状況の程度を明確に示すための指標を文章表記で表したものです。その際には「十分満足できる姿」「概ね満足できる姿」「努力を要する姿」等に分けて表記します。評価基準を設定することで、児童生徒がどの程度、目標を達成できたのかが明確になります。

4 評価計画を含めた学習指導案づくり

評価計画を含めた学習指導案作りの意義

学習指導案の中に評価計画を含めることには3つの意義があります。①観点別目標（評価規準）を立てることで、分析的に評価をすることができる。②単元の評価計画を立てることで、3観点を総合的に育成することができる。③評価基準を立てることで、児童生徒の学ぶ姿を想定して授業実践を実施することができる。

また、授業実践を行う複数の指導者で話し合いながら評価計画を含めた学習指導案を作成するということは、目標・評価の信頼性・妥当性を高めることにつながります。

学習指導案様式

〇〇学習指導案

令和〇年〇月〇日〇曜日〇校時 場所：〇〇〇〇

〇学部 〇グループ 男子〇人 女子〇人 計〇人

指導者 CT：〇〇〇〇 ST：〇〇〇〇 〇〇〇〇

【身に付けさせたい力】

本単元で身に付けさせたい力を学習指導要領を参考にして記入してください。

1. 単元名「〇〇〇〇〇」

2. 単元設定の理由

(1) 児童生徒観

このような実態で、このような課題がある児童生徒たちです。



(2) 単元観

だから、このような意義のある単元を選びました。



(3) 指導観

目標達成のために、このような指導・支援を行っていきます。

3. 単元目標

(1)

本単元で身に付けさせたい力から導き出される、単元を見通した全体の目標を設定してください。

4. 単元の観点別目標（評価規準）

(1) 【知識・技能】

(2) 【思考力・判断力・表現力】

(3) 【主体的に学習に取り組む態度】

「3. 単元目標」を3観点の目標に分けて書きます。何に着目して評価するのかという内容を書くようにしてください。単元目標が複数ある場合は、その中でも一番重視する単元目標の観点別目標を書いてください。

5. 学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	1				
	2				
二	1				
	2				
三	1				
	2				

「4. 単元の観点別目標」の達成のために、どのような学習活動を展開していくかを考え、主な学習活動に記入します。また、評価の観点には、3観点の内容のどこに重点を置いて学習を展開していくかを示します。

6. 単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A			
B			
C			

「4. 単元の観点別目標」を受けて、「その目標をAさんについて考えるとこうなる」というようにして単元の個別目標を設定します。ここでは、一人一人3観点それぞれの目標が立てられます。

7. 本時の学習（の時）

(1) 本時の目標

- ①
- ②

(2) 本時の個別目標

本時の目標は、「4. 単元の観点別目標」と「5. 学習計画と評価計画」との整合性を図りながら、本時に取り組む目標を書きます。

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A			
B			
C			

(1) 本時の目標を受けて、本時における個人の目標を観点別に見て書きます。「6. 単元の個別目標」に対応させて書きます。

(3) 本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	備考
導入 〇分	児童生徒の立場で具体的な活動を書きます。	重視する評価の観点を学習活動に沿って記入する。	教師の立場で、教師が行う指導・支援を書きます。「(児童生徒が)～できるように(教師が)～する」 教材教具の工夫、環境設定、教師の関わりなど。	準備物や補足事項
展開 〇〇分				
まとめ 〇分				

8. 本時の評価基準

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	◎ ○ △		
B	◎ ○ △		
C	◎ ○ △	◎ ○ △	

(2) 本時の個別目標に対して、個々の児童生徒が、どのようなことをどの程度できれば目標達成といえるかがわかるように書きます。

5 個別の評価記録

個別の評価記録の意義

個別の評価実践記録を作成することで、一人一人の児童生徒の観点別目標に基づいて、観点別評価を実現することができます。そのことが、授業改善や個別の指導計画・年間指導計画の改善につながります。

個別の評価記録の書き方

【単元学習に入る前に書くこと】

※本単元の学習指導案がある場合は、それを基に個別の評価記録を作成します。

- ① 「①個別の観点別目標」を立ててください。これは単元を通しての目標になります。活動の目標ではなく、資質能力の目標となります。学習指導要領の目標、内容、事項等が参考になります。
- ② 次に「②各時間の個別の観点別目標」を「①個別目標」を参考に立ててください。これは毎時間の個別目標になります。

【単元学習中に書くこと】

- ③ 毎時間の「②各時間の個別の観点別目標」に対応する観点に対して◎○△等で「③評定」を記入し、「②各時間の個別の観点別目標」に対する「③各時間の個別の観点別評価」を簡単に記述してください。（基本、一時間につき一観点の評価になると考えられます）

実際には、児童生徒の活動に応じて、設定した観点別目標とは違う観点の評価を行うことも考えられます。評価計画はあくまで計画です。計画に縛られるのではなく、活用する（計画を変更する）ことも大切だと考えます。

また、毎時間の評価を行うことが難しければ、評価を行う回数を減らしてもよいと考えます。計画の段階で第○時に「知識・技能」の評価を行い、第○時に「思考・判断・表現」の評価を行い、最後の時間に「主体的に学習に取り組む態度」について評価する、というような評価の方法も考えられます。最終的に単元終了時に3観点の評価が行われていることが大切です。

【単元終了後に書くこと】

- ④ 毎時間の「③各時間の個別の観点別評価」をもとに単元を通しての「④個別の観点別評価」と「④評定」を記述してください。
- ⑤ さらに「④個別の観点別評価」から導き出される成果と課題（どんな力が身についたか、どんな課題が見つかったか等）を「⑤学習の成果と課題」に記述してください。この「⑤学習の成果と課題」を基に通知表や個別の指導計画、指導要録の評価が記述されたり、個別の指導計画の改善が行われたりしていきます。
- ⑥ さいごに、本単元の計画や内容についての評価を「⑥単元の成果と課題」に記述してください。この「⑥単元の成果と課題」を材料に次の単元の計画や、年間指導計画の改善に取り組んでいきます。

1. 単元の個別の観点別目標と観点別評価

観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①個別の 観点別目標			
④個別の 観点別評価			
④評定			
⑤学習の 成果と課題			
⑥単元の 成果と課題			

2. 本時の個別の観点別目標と観点別評価

次	時	②各時間の個別の観点別目標	③評定			③各時間の個別の観点別評価
			知	思	主	
一	1					
	2					
二	1					
	2					
三	1					
	2					

《参考文献・引用文献等》

- ・中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」平成28年12月21日
- ・中央教育審議会「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」平成31年1月21日
- ・高木展朗著「評価が変わる、授業を変える」三省堂 2019
- ・市川伸一編集「2019年改訂 速改 新学習指導要領と『資質・能力』を育む評価」ぎょうせい 2019
- ・岡山県特別支援学校校長会 岡山県教育庁特別支援教育課「授業づくりハンドブック」平成30年3月

6 学習指導案・個別の評価記録実践例

遊びの指導 学習指導案

平成30年11月1日木曜日6校時(14時開始) 場所:体育館

小学部Aグループ 男子3人・女子1人・計4人

指導者 CT:○○○○○

ST:○○○○○ ○○○○

【身に付けさせたい力】

・友達と関わりを持ち、きまりを守ったり、遊びを工夫し発展させたりして、仲良く遊ぼうとすることができる。

1. 単元名「かくれおにごっこをしよう」

2. 単元設定の理由

(1) 児童観

おにごっこ遊びの「オニから逃げる」という決まりは4人中3人が理解していて、オニから逃げることを楽しんで遊ぶことができる。ただし、「かくれてもよい」という決まりを含めて遊んだ経験はない。【知・技】

遊びの決まりは教師が教授する形式で学んでおり、自分たちで決まりを考える経験や遊びを工夫して楽しむ経験はほとんどない。【思・判・表】

また、教師主導ではなく児童同士で遊ぶ経験や児童同士でいざこざを解決する経験は少なく、これからは児童が主体となって遊んだり、いざこざを解決したりする経験を増やしていく必要があると考える。【主体】

(2) 単元観

かくれおにごっこは、おにごっこのルールに隠れる要素を含めた遊びである。隠れるための場所は、体育館の教具(マットや跳び箱など)や大型段ボールを使用して教師と児童が協力して作ることにする。慣れ親しんだ「おにごっこ遊び」を発展させて、隠れる要素を含めることで児童の考える場面を増やしたり友達同士の関わりを増やしたりすることをねらっている。また、シンプルなルールの遊びなので、児童が主体となり、教師はサポートに回る形で遊びを経験することができる。【知・技】

(3) 指導観

本学習グループの課題である「決まりを考えたり、遊び方を工夫したりすること」が経験できるように、遊びの中のトラブルや遊び方の工夫が見られた時は、その都度学習グループ全体で共有できるように指導・支援を行う。【思・判・表】また、単元の後半では、児童が遊びを仕切るリーダーとなり児童主体で遊びが行われるように教師側の支援を徐々に減らし、リーダーとなる児童には遊びの仕切り方について指導・支援を行っていく。【主体】本単元を学習することで「決まりを理解し、守る力」【知・技】「自ら考え工夫をしたり発展させたりする力」【思・判・表】「人と仲良くしたり協力したりする力」【主体】を育むことができると願い本単元を設定する。

3. 単元目標

(1) 教師や友達と一緒に道具を動かし、オニから隠れたり逃げたりすることを楽しむ。

4. 単元の観点別目標(評価規準)

(1) かくれおにごっこのきまりを理解し、守ることができる。【知・技】

(2) 教師と一緒に道具を動かし、オニから身を隠したり、オニの位置を気にしながら逃げたりすることができる。【思・判・表】

(3) 友達と仲良く、かくれおにごっこに参加することができる。【主】

5. 学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	1	かくれおにごっこのきまりを知ろう。	○		
	2	かくれおにごっこのきまりを知ろう。	○		
二	1	道具を動かして隠れてみよう。		○	
	2	道具を動かして隠れてみよう。		○	
	3	道具を動かして隠れてみよう。		○	
	4	道具を動かして隠れてみよう。		○	
三	1	自分たちでかくれおにごっこをしよう			○
	2	自分たちでかくれおにごっこをしよう			○
	3	自分たちでかくれおにごっこをしよう			○

6. 単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	・かくれおにごっこのきまりを理解し、守ることができる。	・教師と一緒に道具を動かして、隠れる場所を作ることができる。	・教師と一緒に楽しくかくれおにごっこに参加することができる。
B	・かくれおにごっこのきまりを理解し、守ることができる。	・道具を動かし、隠れる場所を作ることができる。	・友達と関わりながら楽しくかくれおにごっこに参加することができる。
C	・かくれおにごっこのきまりを理解し、守ることができる。	・かくれおにごっこを楽しくするための新しいきまりを考える。	・かくれおにごっこの遊びのリーダーとして、友達と関わりながら楽しく遊ぶことができる。
D	・オニを意識して逃げることができる。	・オニとの距離を意識して逃げることができる。	・教師と一緒に楽しくかくれおにごっこに参加することができる。

7. 本時の学習（一の2時）

(1) 本時の目標

- ① かくれおにごっこのきまりについて知る。【知識・技能】
- ② かくれおにごっこのきまりを考える。【思考・判断・表現】

(2) 本時の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	・かくれおにごっこのきまりを理解し、ゲームに参加する。		
B	・かくれおにごっこのきまりを理解し、ゲームに参加する。		
C	・かくれおにごっこのきまりを理解し、積極的にゲームに参加する。	・かくれおにごっこを楽しくするための新しいきまりを考える。	
D	・オニを意識して逃げることができる。		

(3) 本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	備考
導入 10分	1 はじめのあいさつ 2 せんせいのはなし ・約束や遊び方、他 3 めあてをきめよう	【知・技】 【思・判・表】	・前時までの振り返りをする。 ・今日の活動の流れや約束事などを実際の動きも見せながら説明する。 ・児童がめあてを考えられるように言葉かけをする。	・めあては「仲良く遊ぼう」「きまりを守って遊ぼう」等が予想される。
	めあて：きまりをまもってあそぼう (例)			
展開 30分	4 かくれオニごっこ ①隠れる場所を作り、隠れる。 ②隠れながらオニから逃げる ※オニ以外全員逃げる。グループごとではない) ③逃げ切った児童やオニが何人捕まえたか、ゲームに対する意見の発表等を行う。 ①～③を3回程度行う	【知・技】 【知・技】 【主】 【思・判・表】	・体育館全体を使用することで児童の走りまわるスペースを作る ・ベルトにタグをつけることで、捕まったかどうか児童自身で判断できるようにする。 ・STは隠れる場所が決まらない場合や隠れようとしめない場合は、隠れられそうな場所を見つけ促したり、一緒に移動したりする。 ・タグの他に「地獄」(ブルーシート)を用意することで捕まったことを意識できるようにする。 ・児童の中でいざこざや、ゲームに対する意見が出てきたときは、CTが取り上げ、全体で「ゲームのきまり」を新しく設定する。 ・毎回、CTは逃げ切った児童や頑張っただけの児童に対して評価を行う。	・新たに追加するきまりとしては「ものを倒して逃げない」「倉庫の中には逃げない」などが予想される。
まとめ 5分	5 ふりかえり ・がんばったこと、工夫したことの発表 6 おわりのあいさつ	【思・判・表】	・今日のめあてが達成できたか、その他頑張ったことや工夫したことを発表できるように支援する。 ・CTは、児童の発表したことをもとに、他の場面でも頑張ったり工夫点を活かしていくよう児童に伝える。	

8. 本時の評価基準

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力
A	◎かくれおにごっこの「オニから隠れる」きまりを理解し、ゲームに参加している。 ○教師の促しを受けながらオニから隠れることができた。 △「オニから隠れる」決まりを理解せずにゲームに参加している。	
B	◎かくれおにごっこの「オニから隠れる」きまりを理解し、ゲームに参加している。 ○教師の促しを受けながらオニから隠れることができた。 △「オニから隠れる」決まりを理解せずにゲームに参加している。	
C	◎かくれおにごっこの「オニから隠れる」きまりを理解し、ゲームに参加している。 ○教師の促しを受けながらオニから隠れることができた。 △「オニから隠れる」決まりを理解せずにゲームに参加している。	◎かくれおにごっこを楽しくするための新しいきまりを考えている。 ○教師の促しを受けながら、新しい決まりを考えている。 △新しい決まりを考えていない。
D	◎オニが誰なのかを理解し、教師と一緒に逃げて遊んでいる。 ○オニが誰なのかを理解せずに教師と一緒に走ることを楽しんでいる。 △ゲームに参加することができない。	

9. 授業の評価のポイント

- (1) 知識・技能の観点を意識しためあての設定、授業展開がなされていたか。
- (2) 児童が、かくれおにごっこの決まりについて理解する場面設定がなされていたか。

個別の評価記録 遊びの指導

児童名：4年 C

担当者名：〇〇〇〇〇

1. 単元の個別目標と評価

観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①個別目標	・かくれおにごっこのきまりを理解し、守ることができる。	・かくれおにごっこを楽しくするための新しいきまりを考えることができる。	・かくれおにごっこの遊びのリーダーとして、友達と関わりながら楽しく遊ぶことができる。
④個別評価	・かくれおにごっこのきまりを理解し、守ることができた。一度決まりを守れないことがあったが、なぜ決まりを守る必要があるのかを理解することができた。	・遊びに慣れてくるにつれて、新しい決まりを考えようとすることができた。教師からヒントをもらうことで、新しいルールを一つ考えることができた。	・リーダーとしての役割を理解し、教師の言葉かけを受けながら、ゲームの始めと終わりを知らせる等して楽しく遊ぶことができた。
④評定	◎	○	△
⑤学習の成果と課題	<p>【成果】・友達と関わり、きまりを守ってかくれおにごっこを楽しむことができた。また、決まりを守るだけでなく、教師と話をし、ヒントをもらうことで新しい決まりを考える経験を積むことができた。活動をよりよくしていこうとする態度が身に付いてきている。</p> <p>【課題】教師の支援や指示がない場面では、教師に何をすればよいのか指示を仰ぐことが多かった。活動の流れ等は理解できているので、自分で考えて、活動を主体的に進めていくことが今後の課題である。</p>		
⑥単元の成果と課題	<p>【成果】・おにごっこ遊びは児童にとって、親しみやすく、新たな創造性を発揮することができる単元だと考える。</p> <p>・ゲームの流れを理解しているため、主体的に活動しやすい単元である。今後も取り組み続けていきたい単元と考える。</p> <p>【課題】・遊びが半分を過ぎたころから、ゲームに参加できなくなる児童がいるので、45分通して飽きずに遊べる工夫が必要。</p> <p>・今回のように遊びの内容に変化をつけて遊んでいくのであれば、単元の総時数を増やしてもよい。6→12時間等。そうすれば、一つ一つの内容に対して、よりじっくりと取り組むことができると考える。</p>		

2. 本時の個別の観点別目標と観点別評価

次	時	②観点別目標	③評定			③観点別評価
			知	思	主	
一	1	・かくれおにごっこのきまりを理解し、守ることができる。	◎			・「オニから隠れる」という決まりを理解し、楽しく遊ぶことができた。
	2	・かくれおにごっこのきまりを理解し、守ることができる。	○			・一度、オニに捕まっても逃げ続けることがあったが、教師からの指摘を受けて捕まったことを認めることができた。
二	1	・かくれおにごっこを楽しくするための新しいきまりを考える。		△		・新しい決まりを考えようとするのがなかった。
	2	・かくれおにごっこを楽しくするための新しいきまりを考える。		○		・教師の助言を受けて新しい決まり「優しくタッチ」を考えることができた。
三	1	・かくれおにごっこの遊びのリーダーとして、友達と関わりながら楽しく遊ぶことができる。			△	・教師と一緒に遊びのリーダーとして楽しく遊ぶことができた。
	2	・かくれおにごっこの遊びのリーダーとして、友達と関わりながら楽しく遊ぶことができる。			○	・教師の支援を受けながら遊びのリーダーとして楽しく遊ぶことができた。

小学部 自立活動の指導 学習指導案

小学部訪問学級 女子1人・計1人

【身に付けさせたい力】

- ・色々な顔の表情で気持ちを伝えることができる。

1. 単元名「色々な動きの違いを感じてみよう」

2. 単元設定の理由

(1) 児童観

対象児童は、四肢に麻痺があり、気管切開や胃瘻造設と医療的ケアを常時必要とする児童である。身体が思うように動かせないことで、常に日常生活では受け身の姿勢が多い。またコミュニケーションの面でも、児童自身は周囲への関心は高く、興味があるものに対しては自分で首を動かして目で追うことができるものの、周囲へ気持ちを伝えることが難しいため、児童自身から発信する機会はほとんどない。そこで、自立活動の中で、6区分27項目を関連させて、「スピードの違いを感じる」、「動きが止まる」、「リズムのある動きを体感する」などを一連の動きで経験させることで、自分自身の体を通して外の世界からの刺激を感じ、それを周囲へ発信する力を身に付けることができると考えた。その力を獲得し、他者と共有する力の獲得を目指す。【知・技】

(2) 教材観

自立活動は、児童生徒が学習上又は生活上で困難や課題を主体的に克服・改善するものである。対象児童は、訪問学級に在籍し、重度重複の障害を持つ医療的ケア児である。自立活動の個別の指導計画でも、「返事をする事」を目標に設定し、本児の持てる力を発揮して発信力の向上を目指している。「返事をする事」の目標設定には、他者とのかかわりが必要で【人間関係の形成】【コミュニケーション】の領域が関連している。さらに本単元では、五感を刺激する内容も含まれており【環境の把握】【心理的安定】も追加で関連させている。

リトミックは、元気に動ける幼児児童で多く取り入れられている教材であるが、本授業で車いすの児童にも活用できる「げんきにげんきに、ゆっくりゆっくり」の曲を取り入れる。この曲は、心地良いリズムに合わせて、「歩く」「走る」「止まる」「ジャンプ」の一連の動きに繰り返し取り組める曲となっている。一つ一つの動きに児童に合わせてゆっくりと臨機応変に移行できる曲であるため、本児の反応に合わせた実施とする。本児自身がスピードの違いなどに気付くことで、五感への刺激を図るとともに、教師とのやりとりの楽しさも身に付けることができると考え、本単元を設定する。

(3) 指導観

リトミックを通して、最重度重複の児童でもこれまでに感じたことのない揺れや、動きの違いを身体への刺激として味わうことができ【知・技】、それが自己の内面で消化するだけでなく、意思の表出として外への発信としてつなげることができると考えた。【思・判・表】また、教師によるスタートの合図を繰り返し経験することによって、活動への期待感を持ち、それが「楽しい」「わくわくする」「もっとやりたい」といった気持ちを教師へ伝える力の獲得から伝わる喜びへとつなげていく。【主体】本単元を学習することで「自分の体を知る力」【知・技】「期待感を持つ力」【思・判・表】「教師へ伝える力」【主体】を育むことができると願い本単元を設定する。

3. 単元目標

- (1) 色々な動きに対して表情で反応することができる。

4. 単元の観点別目標（評価規準）

- (1) 歩くのスピード・走るのスピード、止まるの違いを感じる事ができる。【知・技】
- (2) 教師の合図を聞いて、次の活動への期待感を表情などで示す。【思・判・表】
- (3) 笑顔で教師へ伝える。【主】

5. 学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	1	リトミック① 一連の流れを体感してみよう	○		
	2	リトミック② 一連の動きを体感してみよう	○		
二	1	リトミック③ 次の動きを期待してみよう		○	
	2	リトミック④ 次の動きを期待してみよう		○	
三	1	リトミック⑤ 自分で体の一部を動かしてみよう	○	○	○
	2	リトミック⑥ 自分で体の一部を動かしてみよう	○	○	○
	3	リトミック⑦ 教師と協力して動いてみよう	○	○	○

6. 単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	<ul style="list-style-type: none"> 一連の動きの違いがわかる。 自分で身体の一部を動かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の合図を聞いて、次の動きへの期待感を持てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師へ気持ちを表情で伝え、活動の達成感等を共有できる。

7. 本時の学習（2/7時間）

(1) 本時の目標

- ① 歩く、走るの違い表情で示す。【知・技】
- ② 教師の「よーい」で次の動きへの反応を示す。【思・判・表】
- ③ スピードが変化すると笑顔を見せる。【主】

(2) 本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	備考
導入 1分	(遊びの指導の授業が終わって) 1 リトミックの内容 めあて：動きの違いを感じてみよう	【知】 【思】	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの振り返りをする。 今日の活動の流れや約束事などを実際の動きも見せながら説明する。 児童がめあてに注目できるように言葉かけをする。 	
展開 30分	2 リトミック ①しばらく曲を流して、何をやるかを考える時間を置く ②「歩く」 ③教師の合図で「走る」 ④「止まる」 ⑤「ジャンプする」	【知】 【思】 【思】 【主】	<ul style="list-style-type: none"> 曲を流して、児童の反応を見る。 児童の様子を見ながらゆっくりと車いすを押し、部屋を歩く。 走る前に児童に言葉かけをし、「よーい」と言った後にちょっとスピードをあげて歩く。走っている感じを言葉で表現する。 止まる時は「ピタッ」と止まり、次の「歩く」の動きが始まるまでにカウントダウンをし、児童の反応を待つ。 児童の腕を持ち、教師がジャンプして言葉で「ジャンプ」と伝える。 リトミックが終わって児童の反応を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> 体調に応じて、実施の回数を決める。
まとめ 5分	5 ふりかえり (次の活動へ移す)	【思】 【主】	<ul style="list-style-type: none"> 児童が本時の授業を頑張ったことを大きなリアクションで褒める。 児童の表情を見て、どうだったかを伝える。 	

8. 本時の評価基準

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性
A	◎スピードの違いに笑顔を示す。 ○スピードの違いに表情に変化がでる。 △スピードの違いに、反応をしめさない。	◎教師の「よーい」で、次の動きの期待感を、笑顔で示す。 ○教師の「よーい」で、次の動きの期待感を、ちょっとした反応で示す。 △教師が「よーい」に、反応を示さない。	◎リトミックが終わると、笑顔を見せる。 ○リトミックが終わると、反応を示す。 △リトミックが終わっても、反応を示さない。

9. 授業の評価のポイント

- (1) 知識・技能の観点を意識したためあての設定、授業展開がなされていたか。
- (2) 児童の表情や身体の反応を観察し、気持ちを汲み取ることができる場面設定がなされていたか。

小学部 個別の評価記録 自立活動の指導「いろいろな動きの違いを感じてみよう」

児童名： A

1. 単元の個別目標と評価

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①個別目標	曲を聞いてこれから何が始まるのか、見通しを持つことができる。	教師の言葉かけや合図に対して、表情で伝えたり、身体の一部を動かしたりして、伝えることができる。	リトミックの動きの途中や終わった後に、教師へ表情などで合図を送ることができる。
④個別評価	授業で覚醒が低い状態でも、曲が始まるとすぐに目を開けて教師とアイコンタクトがとれた。	体調が良いときは、スピードの変化に笑顔も見られた。また輪っかを握り教師が引っ張ると、一人で輪っかを握り続けることができた。	活動の途中や終了後に、児童へ感想を尋ねると、笑顔は見られなかったが、教師の顔をよく見ていた。
④評定	◎	◎	○
⑤学習の成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リトミックの音楽を聴いてどのような活動が始まるのか見通しは持つことができていた。また、スピードの違いを表情や体の動きで表したり、輪っかを握ったりすることもできおり、少しずつ自ら活動に参加することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動中は、教師へアイコンタクトはよくあったが、活動の楽しさや笑顔はあまりみられなかった。 		
⑥単元の成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リトミックは「歩く」「ジャンプ」「走る」「止まる」などの動きがあり、子どもの状態に応じて動きを取り入れやすい単元で、児童の反応を観察しながら動きを設定することができた。 ・日常生活の中で、車いすで過ごすことが多い児童にとって、他者による意図的なスピードの動きを経験する機会は少ない。その機会を通して、他者へ本児なりの方法で気持ちを表現するといった活動に取り組むことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動に対して、楽しさや充実感を他者と共有できる場として期待したが、本児の体調にも左右されることや、単元の後半は笑顔の表出が少なかった点から、授業に対しての「飽き」が生じた可能性がある。 ・児童が「自ら参加できる」方法を増やし、受け身ではない授業形態を工夫する必要がある。 		

2. 本時の個別の観点別目標と観点別評価

次	時	②観点別目標	③評定			③観点別評価
			知	思	主	
一	1	揺れや、スピードを感じ、表情などで教師へ伝えることができる。	◎	◎		【知技】曲が始まると、目がパチリと開けることができた。 【思判】少しスピードが出ると目を大きくあけていた。
	2	【知技】曲が始まると、表情などで反応を示す。 【思判】教師の動きの合図に対して、表情などで反応を示す。 【主】色々なスピードの変化に笑顔を見せる。				本児体調不良により実施できず。
	3	【知技】曲が始まると、表情などで反応を示す。 【思判】教師の動きの合図に対して、表情などで反応を示す。【主】色々なスピードの変化に笑顔を見せる。	◎	◎	△	【知技】曲が始まると、目を開けた。教師の手を握り返す動きもあった。 【思判】「よーい」とスピードを上げた際には笑顔が見られた。 【主】曲が終わると笑顔は見られなかった。教師の顔をじっと見ていた。
	4	【知技】曲が始まると、表情などで反応を示す。 【思判】教師の動きの合図で、表情に変化が現れる。 【主】動きの途中や終わった後に、教師へアイコンタクトなどで合図を送ることができる。	◎	△	○	【知技】曲が流れると目を覚まし、教師と目を合わせた。 【思判】教師の言葉かけで表情などに変化は見られなかった。 【主】動きの途中や終わった後に、教師へアイコンタクトなどで合図を送ることができる。
二	1	【知技】曲が始まると、表情で変化を示す。 【思判】自分の力で輪っかを握り続けることができる。 【主】動きの途中や終わった後に、教師へアイコンタクトなどで合図を送ることができる。	◎	◎	○	【知技】曲が始まると、足をパタパタと動かし、さらに教師と目を合わせた。 【思判】自分の力で輪っかを握り、リトミックの曲が終わるまで握り続けることができた。 【主】終わった後、笑顔はみられなかったが教師の方を見てアイコンタクトを図ることができた。

中学部 生活単元学習指導案

令和元年 11 月 15 日 場所：中学部 2 組教室
中学部 2 組 男子 3 人・女子 2 人 計 5 人

【身に付けさせたい力】

・伝える力（中学部）

～いろいろな表現方法で、自分の考えや気持ち、調べたことを伝えることができる～

1. 単元名「いろいろな伝え方にチャレンジしよう」

2. 単元設定の理由

(1) 児童生徒観

本学級は 1～3 年生までの複数学年で構成され、障害の特性や理解の程度、作業能力等の個人差が大きい。習慣化した学習活動には前向きに取り組むが、あまり経験したことがない活動に対しては、苦手意識を持ちなかなか活動ができない、理解するのに多くの時間を要する、などの課題がある。積極的に人と関わろうとするが上手く伝えきれない生徒、気持ちや考えを言葉で伝えるのが苦手な生徒、限られた言葉や内容による会話が主な生徒、発語が無くジェスチャーによるコミュニケーションが主な生徒が在籍し、実態は幅広いが伝える力については全員が困り感を持っている。そのため、生徒間での会話が少なく、休憩時間に一緒に活動する場面はあまりなく、教師との関りが中心となっている。自分の気持ちをうまく伝えることができれば、活動に対してより意欲的になり、経験できることの幅が広がり、より日常生活が豊かになるのではないかと考え、伝える力の育成が必要であると考えた。

(2) 単元観

伝える力を育成するためには、言語理解の深化や表現力の向上を図ることはもとより情報を収集・整理する力も必要となる。そこで本単元では「いろいろな伝え方にチャレンジ」するために、地図やメッセージカード作成を通して情報を収集・整理する活動を計画した。地図は生徒にとってあまり馴染みのあるものではないが、自分の住んでいる地域（宮古島）や 11 月に参加する特体連と関連させることで、新たな負担をかけないように取り組みやすい活動にした。地図を作成する意図の一つとして、地図作成の過程を通して特体連に期待感を持つことができれば、他校の生徒との交流に対しても意欲的になり、他校の生徒と活発な交流が期待できるのではないかと考えた。また、地図は視覚的に宮古島の地理的環境を理解させることができる題材であるので、地図を見て気づく宮古島の特徴などを考えさせることで、メッセージカードのコメント作成や特体連での交流の機会に活かすことができる。さらには、完成した地図を活用し、中学部 1 組の生徒や小学部の児童へ特体連について説明する機会を設けることでも、伝える力の育成を図ることができる。

(3) 指導観

単元の前半では、iPad でのグーグルマップ活用や PC を利用した調べ学習、地図の作成など、慣れていない活動が設定されている。本単元は「伝える力の育成」を主題にしているため、PC 等の情報機器の使い方や地図の作成に関しては、支援の下でだいたいできていけば良いと考える。それ以上に、わからない時には「教えてください」、落ち着かないときなどには「休んでもいいですか」、教室外へ出るときは「〇〇へ行ってきます」など、気持ちや考えを伝えられるようになることに重点を置き支援を行う。その際には、即時評価をしっかりと行うことで、生徒の自己肯定感を高め、正しい伝え方の定着を図りたい。言葉かけ支援は、生徒の自発的な活動の有無や粘り強く取り組もうとする姿勢の有無などを確認しながら適宜行い、支援過多にならないように留意する。また、地図上で施設の場所を探す活動においては、自分なりに工夫して取り組もうとする様子が見られるかという点に着目しながら、活動状況を見守りたい。単元後半の交流の場面では、自己紹介に加え自分の住んでいる地域（宮古島）の紹介もできるように支援を行う。会話が苦手な生徒に対しては、教師側が言葉やジェスチャーを提示し、繰り返し模倣させることでいろいろな表現方法の定着を図る。

3. 単元目標

(1) いろいろな表現方法で、自分の考えや気持ち、調べたことを伝えることができる。

4. 単元の観点別目標（評価規準）

(1) 身近な地域について、調べまとめることができる。【知・技】

(2) 自分の住んでいる地域について考えたことを表現することができる。【思・判・表】

(3) 自分の気持ちや考え、調べたことを伝えることができる。【主】

5. 学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	1	「グーグルマップを使って知っている場所を探してみよう」	○		
	2	「特体連で行く場所を調べてみよう」	○		
	3				
	4	「調べたものを地図にしてみよう」※本時		○	○
	5	「調べたものを地図にしてみよう」			
二	6	「名刺を作ろう」		○	○
三	7	「特体連で交流してみよう」			○
	8	「特体連をふり返って」			○
	9	「特体連を紹介してみよう」			○

6. 単元の個別目標

観 点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	身近な地域について、調べまとめることができる。	自分の住んでいる地域について考えたことを表現することができる。	あまり経験のないことでも、自信をもって伝えようとするすることができる。
B	身近な地域について、調べまとめることができる。	自分の住んでいる地域について考えたことを表現することができる。	自分の気持ちや考え、調べたことを伝えることができる。
C	身近な地域に興味を持つことができる。	自分の住んでいる地域について感じたことを表現することができる。	新しい表現方法で、自分の気持ちや考えを伝えることができる。
D	身近な地域に興味を持つことができる。	自分の住んでいる地域について感じたことを表現することができる。	新しい表現方法で、自分の気持ちや考えを伝えることができる。
E	身の周りの集団に気づき、教師と一緒に参加できる。	集団の中での役割に関心を持つことができる。	身近な人々に自ら働きかけようとするすることができる。

7. 本時の学習（一次の4時）

(1) 本時の目標

調べたものの位置を地図上に示すことができる。【思・判・表】

(2) 本時の個別目標

点 氏名	観	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A			地図の形を見て、調べたものの位置を示すことができる。	自分なりに工夫して活動に取り組むことができる。
B			地図の形を見て、調べたものの位置を示すことができる。	自分なりに工夫して活動に取り組むことができる。
C			見本を見ながら、調べたものを地図上に貼ることができる。	
D			見本を見ながら、調べたものを地図上に貼ることができる。	
E			教師の示す場所を見て、シールを貼ることができる。	

(3) 本時の展開

	学習活動	評価の観点	教師の指導及び支援及び配慮事項	備考
導入 10分	1. はじめの号令 2. パワーポイント ・前時の振り返り ・本時の活動の説明 ・目標の確認	【知・技】	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ生徒の言葉を引き出して、前時の振り返りを行う。 ・イメージ図を見せながら、活動内容の説明をする。 ・目標の確認（調べたものを地図に貼る）を生徒と一緒にやる。※目標は白板の書いておき、いつでも確認できるようにしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ ・PC
展開 30分	3. 地図づくり ①写真をハサミで切る ②地図上で施設の場所を探す ③探した場所にシールを貼る ④シールからリボンを伸ばし、写真を貼る ⑤施設名の記入、色塗り	【思・判・表】 【主】	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒ABは先に②、他は①の活動から行う。(②において、どのように考えて活動に取り組んでいるか、工夫・改善しようとしているか、生徒の言動には留意する。) ・生徒Eは主に③の活動を行う。「見る」ことに課題があるため、目線に留意しながら支援を行う。※腰をトントンと叩くジェスチャーがあった場合は、状況を見てトイレへ行かせる。 ・②の活動において、地図の形から判断するのが難しそうな場合は、パワーポイントに見本を示し、それを真似るように指示する。 ・道具の貸し借りなど、生徒同士で伝え合う機会があれば、積極的に関わりを持たせる。 ・状況を見て、生徒同士の関わり合う場の設定が必要と判断した場合は、ペアを作り、協力して活動させる。 ・生徒ABが先に終わっている場合には、作成した地図を見て、何か気づくことがあるか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示用地図 ・印刷物 ・ハサミ ・のり ・シール ・リボン ・コピー ・テープ

まとめ 10分	4. まとめ	【思・判・表】 【主】	<ul style="list-style-type: none"> ・目標が達成できたのか確認する。 ・授業を振り返って、頑張ったことや工夫したことなど、感想を發表する。 ・次の授業内容の確認を行う。 	
	5. 次回予告			
	6. おわりの号令			

8. 本時の評価基準

観 点 氏名	知識・技 能	思考力・判断力・表現力	主体的
A		◎地図の形を見て、調べたものの位置を示すことができる。 ○教師に助言を求めながら、調べたものの位置を示すことができる。 △教師の支援のもと、調べたものの位置を示すことができる。	◎自分なりに工夫して活動に取り組むことができる。 ○教師に助言を求めながら、意欲的に活動に取り組むことができる。 △教師の支援のもと、粘り強く活動に取り組むことができる。
B		◎地図の形を見て、調べたものの位置を示すことができる。 ○教師に助言を求めながら、調べたものの位置を示すことができる。 △教師の支援のもと、調べたものの位置を示すことができる。	◎自分なりに工夫して活動に取り組むことができる。 ○教師に助言を求めながら、意欲的に活動に取り組むことができる。 △教師の支援のもと、粘り強く活動に取り組むことができる。
C		◎見本を見ながら調べたものを地図上に貼ることができる。 ○教師と一緒に調べたものを地図上に貼ることができる。 △教師の支援のもと、できそうな活動に参加することができる。	
D		◎見本を見ながら調べたものを地図上に貼ることができる。 ○教師と一緒に調べたものを地図上に貼ることができる。 △教師の支援のもと、できそうな活動に参加することができた。	
E		◎教師の示す場所を見て、シールを貼ることができる。 ○教師と一緒にシールを貼ることができる。 △教師の支援のもと、できそうな活動に参加することができた。	

9. 授業の評価のポイント

(1) 3観点を踏まえた授業展開の工夫がされているか

個別の評価記録（生活単元学習）

生徒名： 1 年 B

1. 単元の個別目標と評価

観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①個別目標	身近な地域について、調べまとめることができる。	自分の住んでいる地域について考えたことを表現することができる。	自分の気持ちや考え、調べたことを伝えることができる。
④個別評価	「宮古島」や「〇〇学校」など、パソコンを使って検索、地図の印刷をすることができた。	地図を見て、「宮古島より沖縄本島の方が大きい」と考えを述べることができた。	調べ学習では、興味のあるものを検索することができた。発表や交流では、促しのもと発言することができた。
④評定	○	○	△
⑤⑥成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何気ない雑談中に生徒から「地図で調べたらいいんだよ」との発言があった。地図が場所を調べる手段の一つであることを理解している言動だと捉え、地図を題材として設定したのは適切だと考える。 ・ 特体連地図を作成したことで、特体連参加中には「〇〇学校だ」などの発言や、職員がいない場面で、自分で交流し「〇〇学校の〇〇さんと友達になった」と発言することがあり、主体的に交流する様子が見られた。 ・ 掲示してある特体連地図をじーっと見る様子が見られた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特体連に向けて、限られた日にちで計画を立てたが、もう少し時間をかける必要があると感じた。 ・ 休む生徒もいたため、計画通りにいかないこともあった。 		

2. 本時の個別の観点別目標と観点別評価

次	時	②観点別目標	③評定			③観点別評価	
			知	思	主		
一	1	グーグルマップで自分の家を見つけることができる。	○			家の近くの目印となる場所から、グーグルマップを操作して、自宅を見つけることができた。	
	2	特体連で行く場所を、パソコンを活用して調べることができる。	○			時々、ローマ字表を確認しながら、パソコンを活用して、特体連参加校の検索をし、地図を印刷することができた。	
	3						
	4	調べたものを地図上に示すことができる。		○	△	地図の形を比較しながら、大きな地図に特体連参加校の場所を示すことができた。自分なりの工夫に関しては、観察することができなかった。もう少しゆっくり活動できる計画でも良かった。	
5							
二	1	「宮古島」や「自分の興味のあるもの」を検索して、メッセージカード(名刺)を作ることができる。		○	○	自分の興味のあるものをパソコンで検索することができた。名刺では、自分の名前を入力することができた。(授業当日は休んでいた為、特体連参加後に実施)	
三	1	特体連で他校の生徒と交流することができる。				△	教師と一緒に他の学校と交流をしに行くことができた。自分から自己紹介はできなかった。
	2	特体連を振り返って、感想をまとめ、発表することができる。				○	感想発表では、「枕投げが楽しかった」など、自分の考えを発表することができた。掲示物作成では、自分の写真の吹き出しに、そのときの感情を記入することができた。
	3	特体連を紹介することができる。				△	特体連について、「沖縄(本島)でやる」「飛行機で行く」「他の特別支援学校と一緒にやる」など、その概要を教師の質問に対し、発表することができた。

生活単元学習指導案

令和元 11 月 12 日 火曜日 6 校時 場所：高 2
高等部 2 年 男子 3 人 女子 5 人 計 8 人

【身に付けさせたい力】

- ・考えることを大切にし、行動する力

1. 単元名「自分達で学年お楽しみ会の計画を立てよう！」

2. 単元設定の理由

(1) 児童生徒観

本学級は男子 3 名、女子 5 名の生徒が在籍している。昨年度から学級内での生徒同士の相互間の交流が薄く、他者との関わりという点においても消極的な態度が見られたが、学校生活をともに送る中で、日々の給食準備や清掃活動といった学級活動の中でお互い協力し合い、助け合う様子が見られる他、休日に互いの家に遊びに行くなど生徒相互間での関係性がある程度構築されてきているように見受けられる。しかし学校生活全般においても指示がなければ自ら行動をおこさない、あるいは意見を求められても無言で意思表示にかなりの時間を要する、自分の意見に自信を持つことができず発言ができない等の傾向がみられた。実態として「自分の考えを示す適切な言葉が思いつかない、自分の意見をうまく組み立てることができないというコンプレックスによる自信のなさに起因する表出の困難さ」があると捉えることができる。

(2) 単元観

生徒の実態を踏まえ、彼らの表現活動における課題を人間関係、自己表現、他者への理解という 3 つの視点からの理解を行った場合に、それらをより実現しやすい手段として考えたのがグループディスカッションによる意思決定を行うことを計画した。いくつかの課題についてグループで話し合い、調べ学習を行う中で、自分達の意見を取りまとめながら、最終的に他のクラスのメンバーに対してプレゼンテーションを行い、成果を発表することを学習の主たる内容としている。

(3) 指導観

本学級では年度当初の学級目標として「仲間を認め合い協力して行動できる学級」を掲げ、日々の学習活動の中でそれを意識し、行動するように促してきた。この単元では、学級というコミュニティの中において、少数の集団を作り、そこでの人間関係を構築しつつ、自由な形での自己表現を行いやすい環境を整えることで、生徒達の自然な形でのコミュニケーションを促しつつ、グループとしての意見集約を行う中で他者理解や情報の取捨選択を行い、考えをまとめる力を身につけることを目的として単元設定を行っている。グループ内でのディスカッションを通して自分の意見をしっかりと考え、発言する機会を設けるとともに、仲間達の考えについてもしっかりと聞きながら、協力して課題の解決に当たることで、グループ内だけでなく最終的にはいくつかのグループ同士での意見集約を行う過程において、学級として互いの意見を尊重し、互いの存在を認め合う事を目的として単元設定を行っている。

3. 単元目標

- (1) 仲間とともに一つの課題に対して自分達で考え、お互いに話し合うなかでグループ（学級）としての意見を決定することができる

4. 単元の観点別目標（評価規準）

- (1) 自分達のやりたいことについて調べることができる。【知・技】
- (2) みんなで話し合い、お互いの意見を聞きながら内容を話し合うことができる。【思・判・表】
- (3) 互いの意見を尊重しながら、内容を決定することができる。【主体】

5. 学習計画と評価計画

次	時	主な学習活動	評価の観点		
			知・技	思・判・表	主体的
一	1	余暇活動の過ごし方について学ぼう。	○		
	2	自分達で遊ぶ計画を立ててみよう。		○	
	3	調べたことをプレゼンしてみよう。			○
二	1	知らない県のことについて調べてみよう。	○		
	2	知らない県について話し合ってみよう。		○	
	3	調べた県についてプレゼンしてみよう。			○
三	1	お楽しみ会の計画をペアに分かれて立ててみよう。	○		
	2	お互いの計画を検討し話し合い、プランを絞り込んでみよう。		○	
	3	一つの案に決定し、分担してプレゼンを作成してみよう。			○

6. 単元の個別目標

観点 氏名	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A	iPad で必要な情報を検索し、ノートパッドを使い、自分のアイデアを盛り込んだ内容をまとめることができる。	自分の意見を出して、プレゼンの内容を友達と一緒に作成することができる。	自分の意見を論理的にまとめ相手に理解してもらえるように説明することができる。
B	iPad で必要な情報をネットで集め、ノートパッドで内容をまとめることができる。	互いに意見を出し合いながらプレゼンの内容について検討し、作成することができる。	自分の意見を述べて説明することができる。
C	iPad での情報の検索と、アプリケーションの活用を教師の説明を基に、自分自身で進めることができる。	自分の意見を述べつつ相手の意見の内容について冷静に検討することができる。	率先してアイデアを出して議論を主導的にすすめることができる。
D	iPad で必要な情報をネットで集め、ノートパッドで内容をまとめることができる。	互いに意見を出し合いながらプレゼンの内容について検討し、作成することができる。	自分の意見を論理的にまとめ相手に理解してもらえるように説明することができる。
E	iPad で必要な情報をネットで集め、ノートパッドで内容をまとめることができる。	互いに意見を出し合いながらプレゼンの内容について検討し、作成することができる。	自分の意見を論理的にまとめ相手に理解してもらえるように説明することができる。
F	iPad での必要な情報をネットで検索することができる。	自分の意見を出して、プレゼンの内容を友達と一緒に作成することができる。	自分の意見を述べて説明することができる。
G	iPad で必要な情報を検索し、ノートパッドを使い、自分のアイデアを盛り込んだ内容をまとめることができる。	互いに意見を出し合いながらプレゼンの内容について検討し、作成することができる。	自分の意見を述べて説明することができる。
H	iPad で必要な情報を検索し、ノートパッドを使い、自分のアイデアを盛り込んだ内容をまとめることができる。	互いに意見を出し合いながらプレゼンの内容について検討し、作成することができる。	自分の意見を論理的にまとめ相手に理解してもらえるように説明することができる。

7. 本時の学習（三の2時）

(1) 本時の目標

12月に行われる「学年お楽しみ会」の計画を自分達で考え、話し合い、決定することができる

氏名	観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
A		iPad で必要な情報を検索し、ノートパッドを使い、自分のアイデアを盛り込んだ内容をまとめることができる。	自分の意見を出して、プレゼンの内容を友達と一緒に作成することができる。	
B			互いに意見を出し合いながらプレゼンの内容について検討し、作成することができる。	
C		iPad での情報の検索と、アプリケーションの活用を教師の説明を基に、自分自身で進めることができる。	自分の意見を述べつつ相手の意見の内容について冷静に検討することができる。	
D			互いに意見を出し合いながらプレゼンの内容について検討し、作成することができる。	自分の意見を論理的にまとめ相手に理解してもらえるように説明することができる。
E			互いに意見を出し合いながらプレゼンの内容について検討し、作成することができる。	
F			自分の意見を出して、プレゼンの内容を友達と一緒に作成することができる。	
G		iPad で必要な情報を検索し、ノートパッドを使い、自分のアイデアを盛り込んだ内容をまとめることができる。	互いに意見を出し合いながらプレゼンの内容について検討し、作成することができる。	
H			互いに意見を出し合いながらプレゼンの内容について検討し、作成することができる。	自分の意見を論理的にまとめ相手に理解してもらえるように説明することができる。

(2) 本時の展開

導入 5分	1 はじめのあいさつ 2 前回までの振り返り 3 話し合う方法や決定の流れについての確認	【知・技】 【知・技】	<ul style="list-style-type: none"> ・前回までの振り返りを行う。 ・本時で話し合うこと、最終的に何を決めて欲しいのかを確認する。 ・お楽しみ会の日時の確認や決定事項についての説明 	めあては「自分の意見を言う。」 「他人の意見を聞いて話し合う。」等が予想される。
----------	--	------------------------------	---	---

展開	4 小グループによる調べ学習 ①宮古島の観光スポットについて調べてみよう。 ②調べた内容をみんなに提示してみよう ③提示された観光スポットの中から第1次案の決定 (4つの案への絞り込み)	【知・技】 【主】 【思・判・表】	・1～2人の少人数による調べ学習 ・行きたい場所ややりたいことについて、各グループで最低5つの案を考え出せるように声かけを行うようにする。 ・各グループで選び出した内容の発表し、ホワイトボードへ書き出していく。 ・重複するものを除き、残ったものから4つの案をみんなで絞り込むように話し合う。 ・各案ごとのそれぞれの魅力についてアピ	・iPadを使用
	④4つの案ごとに小グループを作りさらに検討を行う。 ⑤各グループによるプレゼンの実施。 状況に応じて④⑤をさらに実施する。	【思・判・表】 【主】	・各案ごとのそれぞれの魅力についてアピ ールポイントのヒントを与えながら考えを促していく。 各グループのプレゼンを行い最終的な案を一つにまとめていく。 ・観光スポットの魅力だけでなく実際に通るルートや時間、料金の有無などについても適宜確認を行うようにする。	
まとめ5分	5 ふりかえり ・お楽しみ会の日時、内容等の再確認 6 終わりのあいさつ	【思・判・表】	・今日のめあてが達成できたか、その他、頑張ったことや工夫できたことを確認する。 ・お楽しみ会に向けた今後の日程について確認する。	

実際の授業で展開する予定の本時の計画です。

8. 本時の評価基準

	知識・技能
A	◎iPadで必要な情報の検索やアプリを使い自分のアイデアを盛り込んだ内容をまとめることができた。 ○教師の支援を受けながらiPadの機能を使いこなすことができる。 △iPadの機能を使いこなせなかった。
C	◎iPadでの情報の検索と、アプリの活用を教師の説明を基に、自分自身で進めることができる。 ○教師の支援を受けながらiPadの機能を使いこなすことができる。 △iPadの機能を使いこなせなかった。
G	◎iPadで必要な情報の検索やアプリを使い自分のアイデアを盛り込んだ内容をまとめることができた。 ○教師の支援を受けながらiPadの機能を使いこなすことができる。 △iPadの機能を使いこなせなかった。

観 点 氏名	思考力・判断力・表現力
A	◎自分の意見を出して、プレゼンの内容を友達と一緒に作成することができる。 ○教師の促しを受けながら検討・作成を行うことができた。 △話し合いで内容をまとめることができなかった。
B	◎互いに意見を出し合いながらプレゼンの内容について検討し、作成することができた。 ○教師の促しを受けながら検討・作成を行うことができた。 △話し合いで内容をまとめることができなかった。
C	◎自分の意見を述べつつ相手の意見の内容について冷静に検討することができる。 ○教師の促しを受けながら検討・作成を行うことができた。 △話し合いで内容をまとめることができなかった。
D	◎互いに意見を出し合いながらプレゼンの内容について検討し、作成することができた。 ○教師の促しを受けながら検討・作成を行うことができた。 △話し合いで内容をまとめることができなかった。
E	◎互いに意見を出し合いながらプレゼンの内容について検討し、作成することができた。 ○教師の促しを受けながら検討・作成を行うことができた。 △話し合いで内容をまとめることができなかった。
F	◎自分の意見を出して、プレゼンの内容を友達と一緒に作成することができる。 ○教師の促しを受けながら作成を行うことができた。 △プレゼンの内容を作成できなかった。
G	◎互いに意見を出し合いながらプレゼンの内容について検討し、作成することができた。 ○教師の促しを受けながら検討・作成を行うことができた。 △話し合いで内容をまとめることができなかった。
H	◎互いに意見を出し合いながらプレゼンの内容について検討し、作成することができた。 ○教師の促しを受けながら検討・作成を行うことができた。 △話し合いで内容をまとめることができなかった。

	主体的に学習に取り組む態度
D	◎自分の意見を論理的にまとめ相手に理解してもらえるように説明することができる。 ○教師と一緒に考えながら自分の意見を説明することができる。 △相手に理解してもらえるように説明できなかった。
H	◎自分の意見を論理的にまとめ相手に理解してもらえるように説明することができる。 ○教師と一緒に考えながら自分の意見を説明することができる。 △相手に理解してもらえるように説明できなかった。

9. 授業の評価のポイント

- (1) 生徒が思考力・判断力・表現力を活かして授業に加わることができていたか。
- (2) 本時の評価基準は生徒の実態にあわせた適切なものであったか。

8 通知表について

(1) 通知票の書き方について

① 通知表（評価）記入についての前提

- ア 児童の資質・能力の変容と指導について書く。「目標に準拠した評価」
- イ 評価の観点を明確にする。「観点別学習状況の評価」
- ウ 資質・能力の向上に役立てられるように書く。「アセスメントとしての評価」
- エ 道徳科は個人内評価のため、観点別ではない。

② 目標の書き方

- 学習指導要領の教科の目標・内容を参考にして書く。
 - ・活動の目標ではない。
 - ・観点別でなくてもよい。
 - ・自活は領域名も括弧書きで書く。

③ 学習内容の書き方

- 目標に対しての学習内容を書く。
 - ・学期にやったことを全て書くわけではない。
 - ・音楽→曲名等、自活→絵カード、ペグ差し等。

④ 評価の書き方

- 観点を明確にして書く
 - ・～を理解することができた。～と感ずることができた。等、文末表現で観点を明確にできる。
 - ・基本3観点で書く。まだできていないこと、それも評価。ただし、その観点について今後どう取り組んでいくかも書く。
 - ・重度重複の児童の場合、個人内評価（人間性や可能性、期待等）を【学びに向かう力、人間性】として書いてもよいとする。

⑤ 総合所見の書き方

- 保護者や児童へのメッセージとして書く
 - ・児童の変容、その背景や要因を分析して書く。
 - ・観点別である必要はない。
 - ・個人内評価も書いてよい。

(2) 通知表の記入で配慮したいこと

① 前提として

- ア 表現の前提となる「対象が誰で」「どんな目的で」「何を伝えるのか」を十分考慮する。
- イ 限られたスペース、文字数で表現することに配慮する。

② 分かりやすく

- ア 専門用語は置き換えて表現する。

- イ 取り組みの方針と具体的方法をポイントを絞って書く。
- ウ 生徒が努力していたことを中心に内容を組み立てる。(活動の記録を活用する)
- エ 「できる」「できた」の程度を表す表現の工夫をする。(副詞、文末表現)
- オ 主語等省略した言葉の係り受け、助詞の選択に十分配慮し、誤解のない表現にする。
(例えば、事実と感じたこと、支援することを一文で表現するとき等は要注意)
- カ 評価観点はその言葉を明示することで明確になる。(～を理解した。～の知識を～)

③ 伝えるに配慮する (総合所見)

- ア 必要ならば、家庭での指導への期待や協力依頼は丁寧に書く。
- イ 文字数の制限等で書ききれない場合は、懇談の席で伝える等の工夫をする。
- ウ 表現した内容には、その根拠をもち説明できるように備える。
- エ 指導の重点が伝えられるように表現を工夫する。(ポイントを名詞に置き換える等)

④ 表現力の向上を目指して

- ア 多くの語彙を身につけるための情報との向き合い方を見直す。
例えば：客観的な情報を表現したい → 情報からどんなことが言えるのか？
問題は何か？を考えることを意識する。
- イ 自分の意見を持つ → 文章化する。書くことで見えてくる思考の癖や自分なりの言い回しを把握し、改善に繋げる。
- ウ 考えはアウトプット (Output) することを推進し、表出をおそれない態度を身につける。
同時に表現を受け入れる職場の雰囲気づくりを図る。

=そもそも=

評価として表現を成立させることとは

事実から何を把握し、どのように感じ、どのように支援する(支援していくつもり)かを制限された文字数に合わせ、読み手となる対象に配慮して書く。

欄に書かれた文章(表現)として見た場合、基本として必要な構成要素は①～③になる

- ①事実(生徒の活動 教師の支援)
- ②その時に評価という視点から感じたこと
(ここでは感じたが持つ意味の範疇は限定しない)
- ③今後支援すべきこと(事実を把握した後、どのように支援するつもりか)

誤解に繋がりやすい例

=事実の記載(主述の一致) =

- ・主語を生徒にして書きだした場合(省略されていても)、一文の中で、教師の支援を書きたいときは、主語となる「教師は」の明記が必要。(あるいは二文にする)
- ・①においての教師の支援と③の支援とを続けて書きたいときは、時間の経過がわかるように、或いは支援の段階がわかるように、適切な接続に配慮することが必要。

=感じたことの記載(文末表現) =

- ・評価という前提で感じ取れたことを書くことに注意し、文末表現を工夫する。

*誤解のないように伝えることや、書きたいことを正確に表現できるよう努力する。

(3) 通知表の記入例 (小学部)

教科	目標	学習内容	評価
国語	<p>①繰り返しの言葉や文章のリズムを生かして、音読をすることができる。(語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること)</p> <p>②挿絵と文を結び付けて、登場人物の行動や場面の様子やセリフなどを想像することができる。(場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること)</p>	<p>①②「おおきなかぶ」</p>	<p>①「おおきなかぶ」の学習の中で、繰り返しの言葉「うんとこしょ、どっこいしょ」があることに気づくことができました。【思・判・表】また、繰り返し教師の範読を聞いたり、拍手でリズムをとりながら音読をすることで体感的にリズムのよさについて感じるようになってきています。一字読みではなく、語のまとまりで読むことができています。【知・技】</p> <p>②友達の受け答えを参考にして、「たねからかぶになれ」「ぬけないよ」「はたけをがんばるぞ」等とおじいさんの気持ちについて考えることができました。また、かぶをひっぱりながら音読する活動を行ったところ、「うんとこしょ、どっこいしょ」の「しょ」を強く読むと登場人物の「がんばる」気持ちに近づくということに気付くことができました。【思・判・表】【主体】</p>
算数	<p>①丸、三角、四角の形を使って鬼の顔を製作し、表現することができる。(身の回りのものの形に着目し、集めたり、分類したりすることを通して、図形の違いが分かるようにするための技能を身につけるようにする。)</p>	<p>①製作活動(鬼の顔作り)</p>	<p>①教師が手本となり、丸、三角、四角に切られた画用紙を使って、鬼の顔の製作を見せた後に、教師と相談しながら、鬼の顔の製作を行いました。丸、三角、四角の形の違いを理解し、分類することができました。【知・技】「この白い丸は目かな？鼻かな？」等の言葉かけの支援をすることで、丸は目、三角は鼻というように自分で考えて製作することができました。「笑った鬼を作る？怒った鬼を作る？」の問いかけには「赤鬼は笑っている鬼、青鬼は怒っている鬼」と答え、眉毛の三角の形を変えることで笑った鬼と怒った鬼の二つの表情を表現することができました。【思・判・表】【主体】</p>
音楽	<p>①曲の雰囲気に合わせて自由に身体を動かして、表現することができる。</p> <p>【身体表現】(音や音楽を聴いて、様々な体の動きで表現する技能)</p>	<p>①「ちょうちょ」</p>	<p>①学習発表会に向けて「ちょうちょ」の曲に合わせて、腕を上げ下げしたり、リズムに合わせて歩いたりする身体表現に取り組みました。初めのうちは、教師の手添え支援を受けながら身体表現をしていましたが、だんだんと自分の感じるままに腕や足を動かして表現できるようになっていきました。【知・技】【思・判・表】学習発表会の事後学習では、小学部の友達の前で「ちょうちょ」の身体表現を披露しました。元気に腕を上下に動かしたり、腕を挙げながら笑顔でジャンプをしたりして、楽しく自由に表現することができました。【主体】</p>

<p>体育</p>	<p>①教師と一緒に走ったり歩いたりして楽しく身体を動かすことができる。(教師と一緒に、走ったり、跳んだりして楽しく体を動かすこと)</p>	<p>①持久走(1km)</p>	<p>①校内の外周道を2周(1km)走る持久走に取り組みました。まず、健康な生活を送るためには「食べる、眠る、運動する」の三つ要素が必要であることを知りました。 【知】そして、実際に持久走を行う際には、楽しい雰囲気の中、身体を動かすことができるように、教師が追いかけてたり、逃げたりする真似をしながら取り組みました。また、毎回の記録をとり、前回のタイムよりも速く走ることを目標とすることで、「前よりも速く走れて嬉しかった」と教師に伝えることもできました。【思・判・表】【主体】</p>
<p>道徳</p>	<p>①みんなのためにできることを考えたり、みんなのために役立つことをするよさを知る。(働くことのよさを知り、みんなのために働くこと)【勤労、公共の精神】</p>	<p>①話し合い活動「みんなのためにできること」</p>	<p>①学校生活の中で、みんなのためにできることについて話し合いを持ちました。教師と一緒に、具体的に学校生活の流れを確認していく中で、「給食準備の際に給食配膳用の机を運ぶこと」がみんなのためにできることだと気付くことができました。また、そのことを実際に行動に移し、まわりの人に称賛されることで、みんなのために役立つことをするのよさを実感を持って知ることができました。この活動を「係り活動」に発展させることで、責任感を持って働く態度を身に付けていけるように継続して取り組んでいきます。</p>
<p>自立活動</p>	<p>①自分の感じたこと、思ったことを言葉で相手に伝えることができる。【コミュニケーション】(コミュニケーションの基礎的能力に関すること)</p>	<p>①「絵カード」「ロールプレイ」「ごっこ遊び」</p>	<p>①自分の感じたこと、思ったことを身近な人にしか伝わらない表情や特定のジェスチャーで伝えることが多く見られました。これは、語彙が少ないために自分の考えや気持ちを的確に言葉にできないことが考えられました。【知・技】そのため、絵カードを使って、気持ちを表す言葉を覚えたり、実際に学習した言葉を使ってやりとりをするロールプレイやごっこ遊びに取り組みました。ロールプレイを通して、「えんりよします」「やりたいです」「かしてください」等の言葉を場面に応じて使う経験を積むことで、実際にものを借りる場面や友達からの誘いを断る際に「かしてください」や「えんりよします」と受け答えをすることができました。【思・判・表】【主体】引き続き様々な場面で言葉で相手に伝えられるように語彙力の向上とやりとりの経験を増やしていくように取り組んでいきます。</p>
<p>日常生活の指導</p>	<p>①好き嫌いなく食事をする態度を身に付ける。(日常生活に必要な身近処理等に関する知識や技能を身につけること。『生活』)</p>	<p>①基本的な生活習慣</p>	<p>①1学期、苦手な食べ物は半分以上残すことが多くありました。【知・技】そこで、なぜ好き嫌いなく食事をする必要があるのかについて、「しょくいランドのたんけん たちからものはなあに？」の読み聞かせを行い「風邪をひかない元気な体を作るため」ということを知ることができました。【知・技】給食指導の中でも好き嫌いなく食べることで、元気な体が作られることを繰り返し説明することで、</p>

			苦手なものも残さず完食できる日が増えていきました。 【知・技】今後は、自分で判断をして好き嫌いなく食べることができるように取り組んでいきます。【思・判・表】
遊びの指導	①友だちと一緒にかくれ鬼ごっこをして楽しく遊ぶことができる。 (日常生活の遊びで、友達と関わりを持ち、きまりを守ったり、遊びを工夫し発展させたりして、仲良く遊ぼうとすること。『生活』)	①かくれ鬼ごっこ	①1学期から追いかけて遊びに取り組んでいるので、「鬼から逃げる」「鬼になったら追いかける」という決まりを理解し、活動に楽しく取り組むことができています。【知・技】また、2学期以降取り組んでいる「鬼から隠れる」という要素に関しても友達の様子を見ることで理解し、隠れながら鬼ごっこをすることもできています。【知・技】また、友達の誘いを受けて同じ場所に息を潜めて隠れ、鬼に見つかった際には声を上げながら友達と一緒に逃げるなど、仲良く遊ぶこともできました。【思・判・表】【主体】
生活単元学習	①係活動について知り、教師と一緒に当番活動をする態度を身につける。 (身近な集団活動に参加し、簡単な係活動をしようとする事『生活』)	①係活動	①視覚教材や教師の説明を通して、係活動の内容について知ることができました。また、係活動はみんなのために行う仕事だということも知ることができました。【知・技】いくつか提案された係活動の中から、給食台を移動させる係を選びました。【思・判・表】そして、給食準備の際には、教師と一緒に給食台を所定の場所に運ぶことができています。【知・技】運んだ際に周りの教師や友達に称賛されることで、喜びとともに責任感が芽生えてきているように感じます。今後は友達と一緒に係り活動ができるように継続して取り組んでいきます。【主体】

総合所見

3学期は、登校のスクールバスから降りてくると、すぐに「髪切ったよ」という報告や「今日は何するの?」という質問等、自分から積極的に言葉でのやりとりをするようになってきました。友だちや教師と楽しい経験を積み重ねることによって、不安感、緊張感なく友達や教師とかかわれるようになってきているためだと考えています。また、学習活動の中での小さな困難や友達とのトラブルは自分の力で解決していこうとする意欲も感じられるようになってきました。さらに、担任以外の教師や他学年の友達とかかわりも増えてきているので、次年度以降交友関係の広がりや人とかわる力のさらなる向上に期待しています。ご家庭においても、引き続き、楽しい経験ややりとりを通してかわる力を一緒に育てていきたいと思います。

※目標の中の () 内の文言は、設定した目標に係るその教科の学習指導要領に示されている内容の事項の文言。実際の本校の通知表においては () 内の文言と評価の中で【】で示されている観点等は記述されていない。「評価の手引き」として学習指導要領との関係及び評価の観点を明確にするため例として示している。